

令和元年度 学校評価計画表

奈良県立奈良朱雀高等学校 (全日制課程)

学校運営計画 (4月)							総合評価
教育目標		○人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ○ものづくりとビジネスの実習・演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。					
学校運営方針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立をめざす。					
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			
大幅な遅刻数減など規則正しい生活習慣は定着しつつある。その一方で、学習習慣が定着していない生徒が少なからず存在する。引き続き、規範意識の向上と、生徒指導の充実を図るとともに、各分掌が連携して、基礎学力の確実な定着と資格・技能検定取得や進路への目的意識を持ち、主体的に粘り強く取り組むことができる生徒を育成する必要がある。また、専門教育活性化の取組など、全職員が教育目標を共有し、職員間のコミュニケーションを大切にして、組織力の強化を図りたい。		(1) 産業人、社会人として必要な資質を身につけ、社会のルールやマナーを守り、主体的に行動できる生徒を育成する。 (2) 部活動の活性化により、目的意識を持ち、協働的に粘り強く取り組むことができる体力や精神力、協調性を養う。 (3) 学校が地域と家庭、企業及び大学等の関係機関と連携し、生徒が目的意識を持って学習活動に取り組むことができるよう、教育内容を工夫・改善する。 (4) 専門教育の活性化に取り組む。		・地域行事への参加、ボランティア活動等を通じて、生徒の社会性と規範意識の向上を目指し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ・身体測定、健康診断、体力テストにより自分の体の状況を把握し、体力の重要性に関する意識付けを行う。 ・部活動への加入率を向上させる。 ・インターンシップにより、勤労観、職業観を育む。 ・シラバスに基づいた学習活動を展開し、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。 ・生徒が主体的に進路選択ができるよう、資格や検定取得の意義を理解し、合格できるよう指導する。 ・プロジェクトチーム、ワーキンググループを中心として検討、研究する。 ・地域、企業、専門学校、大学等と連携した取組の充実を図る。 ・職員間、分掌間での意見交流を活性化し、円滑なコミュニケーションを図る。			
教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	課題の改善策等	前年度実績と学校関係者評価
教務	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振生徒の減少を図る。 家庭学習の充実を図る。 授業の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 第1学期成績不振生徒 (欠点科目1科目以上) 10%以下にする。 本年度各学年「まったくやっていない」生徒を0%に近づける。 昨年度の授業アンケート結果は、質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」「A そう思う・B だいたいそう思う」合わせて80%を目指す。 					
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席防止 (遅刻回数、全体で昨年度の10%の減少)。 あいさつの励行 (あいさつ運動の展開)。 集会における自転車乗車マナー・通学マナー・電車乗車マナー等向上の啓発。 自転車マナーアップ隊による自転車乗車マナー向上の啓発。 交通安全教室等の実施により、登下校時の安全確保の取組。 薬物乱用防止教室実施による「危険ドラッグの問題」についての啓発 					
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 卒業までに就職希望者全員の就職先を決定する。 面接指導をさらに充実させる。特に、就職希望者には最低4回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対して、本校教員と外部講師による面接指導を複数回実施し、近年多様化する面接に対応できる順応性を身につけさせる。 					

	・専門校入試・公募制入試の合格者を昨年度より増加させる。	・進学希望者に対して、早朝、放課後等に講座を実施し、国立大学を含めた公募推薦・専門校入試に対応できる学力を身につけさせる。					
人権教育 (特別支援)	・人権を尊重する心の育成。 ・特別支援体制の共通理解。	・人権LHRを企画・立案する。 ・職員研修、人権講演会を実施する。特に、職員研修（職員全体向け）を年1回以上行う。 ・配慮を要する生徒の把握に努め、教職員、生徒、保護者の共通理解により指導を充実させる。					
図書	読書活動を通して、思春期における豊かな感受性を育み、自己の内面や社会を見つめる機会を持つことによって自己陶冶に努めさせる。	・朝のMSRなどを通じて、図書への関心を増すための読書活動を促進する。(目標アンケート内肯定的評価 80%以上) ・図書館利用の授業を推進したり、読書習慣の定着に努める。(目標図書館利用授業回数延べ10回以上)					
特別活動	・部活動への加入率を上げる。 ・生徒会活動や各種委員会の活性化に取り組む。	・部活動紹介をより魅力あるものとし、部活動勧誘を積極的に行う。 ・部活動に未加入の生徒の集会をする。 ・生徒会役員の自主性を育て、生徒からの発案を引き出す。 ・各委員会の活用方法を生徒会から提案していく。					
保健体育	・生徒の健康保持増進を高めるため基本的な生活習慣を整えるよう促す。クラブ加入率を上げる。基礎体力の向上。 ・健康調査等の取り組みを計画的・継続的に実施。	・治療報告書の意義を周知し、回収率を高める。懇談時に保護者との協力・連携を図る。 ・男子70%女子40%運動部へ加入を目指す。 ・新体力テストの学年別平均得点より3ポイントの向上を目指す。 ・健康調査票等の集約と早期に共通理解を図る。 ・食育に関するアンケート調査の実施。 ・感染症の予防に努める。					
環境整備 (防災管理・安全教育)	・環境美化の啓発 ・防災、安全教育の充実	・ゴミの分別・減量を進める。 ・清掃用具を整備する。 ・植栽活動を行う。 ・机の天板を更新する。 ・花いっぱい運動を実施する。 ・春と秋に「避難訓練」を実施する。 ・1月に「防災HR」を実施する。					

総務	・広報活動の展開	・メールを活用した保護者連絡システムを広げる。 (目標：1年100% 学校全体 90%) (昨年度：1学年96.4%、2学年88.1%、3学年58.57% 全体81.3%) ・広報活動の工夫。 ①連絡事項の精選と、緊急連絡と学校行事予定の保護者への					
----	----------	--	--	--	--	--	--

		周知徹底。 ②発信内容の精度を増すためのチェック体制の整備					
機械工学科	技能検定への積極参加を呼びかけ 生徒の進路実現に活かす。 今年度も30名以上の合格を目指す。 観点別評価の実施率を50%以上に 高める。	1年次から実習の中での取り組みを継続し、技能検定への積極参加を呼びかけるとともに、教員の働き方改革も進める。 一昨年まで行っていた土曜日の指導を、放課後の指導に70%以上振り替える。 科内において PDCA サイクルを用いながら、観点別評価の実施率を高めると同時に、評価のフィードバック効果を検証する。					
建築工学科	・伝統技術・先端技術・起業家育成の3つのコンセプトから取組を行う。 ・新学習指導要領に向けて、学習指導研究を行う。	・コンセプトの取組などから本校・本学科で学んでよかったと答える生徒を育てる。 目標 75%以上 ・その取組がマスコミに掲載されるようにする。 目標 5回以上/年 ・学習指導研究研修会を学科内で行う。 目標 3回以上/年					
情報工学科	・多くの生徒に、国家資格やものづくりに必要とされる資格を取得させる	・多くの生徒が国家資格を取得できるように指導する。 (目標：2年生の国家資格取得者 35%以上) ・各種技能検定試験への受検を積極的に勧め、受験者の増加を図るとともに、技能者の技能習得意欲を増進させる。 (目標：合格者10人以上/年)					
商業科	・全商協会主催検定合格率の向上	・基礎、基本の定着と授業法の工夫及び授業改善に努めるとともに、その成果として全商検定上位合格率の向上を目指す。 全商簿記検定1級平均合格率30% 全商情報処理検定1級(ビジネス情報)平均合格率30% 全商情報処理検定1級(プログラミング)平均合格率30%					
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行 遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくり 起立、礼、着席（SHR時机上にカバンを置かない） 遅刻指導や特別指導の減少に向けて（学年全体500以下）					
	基礎学力の向上と習得、不認定について	授業態度の向上と欠点を取らない雰囲気づくり 提出物の徹底（課題レポート、製図、ノート） 実技に関する科目の理解と確認					
	その他	アルバイトは極力させず、学習、クラブ重視（加入率60%） 教室整備の徹底（ロッカー、ゴミの分別、教室清掃） 保護者との連携を密にする（特に、欠席・遅刻の連絡等） 全校集会、学年集会については校歌を歌える学年づくりの指導					
第2学年	・基本的生活習慣の確立	・「大きな声」で「元気よく」する挨拶の励行					

	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上と習得、専門科目に対する理解と取り組み ・統一した指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身だしなみを整えて」起立、「大きな声で挨拶」をして礼、「着席」の号令のもと着席の徹底 ・「教室に居なくなる」、「教室にいなければならない」雰囲気づくりで遅刻・欠席・早退の減少 ・集団生活の中で守らなければならないルールやマナーの徹底した指導 ・修学旅行に向けて帰属意識を高め、集団の中の一員として行動できるよう促す ・日々の授業を大切に、家庭学習を習慣化させる。 ・実技科目、専門科目の理解と指導の徹底、検定取得に向けて生徒が達成感を味わうことのできる粘り強い指導 ・「担任が最大のフィルター」であることを自覚し、両担任が粘り強く指導するとともに、学年集団が廊下番や授業、月に一度の生徒指導部による頭髮服装点検で説得力を持たせる。 ・MSRの雰囲気を定着させる ・教科書・ノートの持ち帰り、ゴミの分別、掃除の徹底など、教室整備に努める ・保護者との連携を密にし、家庭環境や悩みを共有することでともに子どもを育てている姿勢を示し、学校での指導に理解を求める ・学年集団が日頃からコミュニケーションをとり、いろんな話を気軽に話せる雰囲気のもと、生徒の情報を共有し、しんどい生徒を担任が抱え込むことのない集団をつくる 						
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・基礎学力の向上 ・進路実現に向けて ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 ・遅刻の減少（1年時453、2年時1093） ・女子生徒の化粧をさせない雰囲気づくり ・授業態度の向上およびテスト対策の強化 ・提出物の徹底 ・全生徒の希望進路実現に向けての取り組みの実施 ・MSRの弾力的な運用（進路対策） ・進路指導部との綿密な連携 ・クラブ活動と学習の両立 ・アルバイト届の徹底 ・最上級生としての自覚 						